



氷見市立 十二町小学校

校長：山本 道代

指導教諭：寺崎 孝史

発表児童：4年生（16名）



校区は古くから万葉ゆかりの水郷地帯であり、万尾川、仏生寺川、十二町瀧などの水環境に恵まれた地域である。また、「十二町瀧オニバス発生地」「イタセンバラ」という二つの国指定天然記念物があり、その保護活動に取り組んでいる。

本校では、昭和47年より学校内の栽培池でオニバスの栽培・観察を行っており、近年は、4年生が総合的な学習の時間にこのオニバスを素材に学習を進めている。

発表テーマ

育てようふるさとの宝オニバス

学校の池で昭和47年以来オニバス栽培に取り組んでいます。

①オニバスの成長の様子 ②十二町瀧の歴史 ③十二町瀧の水環境
以上の三点について子供たちの調査結果と感想を発表します。

寺崎 孝史 先生より

ふるさとの自然から学び、 環境を大切にする子供に

自然豊かな地域に生まれ育った子供たちに、そのよさを感じ取らせ、ふるさとを愛する心や態度を育てたいと願っている。なかでも、「オニバス」は地域を代表する水生植物であり、ふるさとの宝となっている。そんなオニバスを実際に栽培・観察しながら、自然界の巧妙さを感じ取らせ、自然環境の大切さに気づかせたいと考えた。また、人間と瀧や川との古くからのかかわりの中でオニバスが絶滅危惧状態に陥ったという歴史的な背景を調査したり、現在、保護活動に活躍している方と直接かかわったりすることなどを通して、「人間と自然とのかかわりの在り方」について深く考えさせたいと思っている。



考えたこと! 感じたこと!

楽しかったオニバス栽培

堀川 千寛(4年生)

最初、上級生からオニバスの栽培についての話を聞いたとき、大変そうではくたちにできるか心配になりました。池を耕した後、水を張りしばらくするとたくさん芽が出てきました。そのときはとてもうれしかったです。毎日、みんなで世話や観察をしたり、水質調査をしたりしました。オニバスを守ることは昔の自然をとりもどすことだと分かりました。

オニバスの知恵

蘭生 悠人(4年生)

ほくは、オニバス研究会の中川先生の話がとてもおもしろかったです。先生は、長年オニバスをはじめいろいろな動植物の研究をされ、オニバスが十二町瀧に自生できるように努力されている方です。先生の話で一番興味があったのは、オニバスの増え方です。鳥が水に浮いているオニバスの種を食べ、その糞で生息範囲を広げていくというものです。ほくはその話を聞いて自然の仕組みはうまくできているなあと思いました。また、オニバスは、他の動植物とも深くかかわり合っていることが分かりました。



▲市のオニバス研究会の中川先生からオニバスの生育条件についてお話をいただきました。



▲5月、池を足で耕しました。水がまだ冷たかったけれど、生き物がたくさんいました。



▲たくさん葉がついてきたので池がせまくならないようにみんなで間引きしました。



▲成長の様子を観察記録していきます。



▲葉が大きくなると間引きするのも大変です。



▲十二町地区の水辺の水質を調査しました。

学習テーマの設定

いま絶滅の危機がせまる

オニバスは1年生の水草。アジア原産で日本各地に生息していますが、環境の悪化や深田が改良されて自生地が減り、今では国のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されています。



栽培と観察を続ける

十二町瀧は大正12年に「十二町瀧鬼蓮発生地」として国指定天然記念物になりました。わが校では昭和47年(1972)から校内の池でオニバスの栽培と観察を続け、今も4年生中心に学習を進めています。

学習の展開

池の耕しから栽培スタート

5月中旬にオニバス池を耕して土と空気を混ぜ、種を空気にふれさせました。5月下旬に発芽。矢じり型の葉が池に姿を現しました。その後、気温が上がるにつれ葉がどんどん大きくなり何度も間引きしました。



夏にむらさきの花が咲いた

8月になると、鳥のくちばしのような形の花が大きな葉のあちこちから出てきて、むらさき色の花が咲きました。花は3日間ほど咲いて、水中にしずんでいきます。

秋には新しい種が浮かぶ

10月、気温の低下とともに葉が枯れ、新しい種が浮かんできます。1つの実に50コ余りも種があり、池全体に広がって水中にしずみます。これは仲間を広い場所で増やすためのオニバスの知恵です。



減少の原因を水質から探る

オニバスの減少は水辺の減少だけでなく、水質にも問題があるのでは?と考え池や川の水質も調べました。下流では生活排水などで川が汚れ、人の快適な生活とひきかえにオニバスのすみかが失われつつあります。

美しい自然をとりもどそう

オニバスを守るため、水を汚さず、動植物を大切にするなど、環境問題を自分の問題として取り組んでいく大切さを学びました。美しい自然をとりもどせば、すべての水生動植物が命をつないでいけるのです!

